

奈良市会

経緯や価格を問題視

奈良市新斎苑 西側山林購入 防災公園案も

奈良市議会の6月定例会は15日、本会議を再開。この中で、市が新斎苑(火葬場)整備に伴って追加購入した同市横井町の西側山林(約5・8畝)について、質問や提言が相次いだ。三橋和史氏(日本維新の会)は、購入決定の経過に改めて疑義を示すとともに、市が「約11畝を土地鑑定価格の約3倍で購入したことも」「公共用地を取得する際の前例になりかねない」と危ぐ。松石聖一氏(市民の声奈良)は西側山林を防災公園(仮称)とする「私案」を示し、早期の活用を促した。

三橋氏は代表質問「当時新斎苑の候補地と」と土地購入に向け交わ
で、市が平成27年7月、「していた山林の地権者」した「覚書」に、今回

購入した用地とは違
地番が書かれていたこ
とを問題視。

「(追加購入した)
西側山林のさらに西の
地番が書き込まれたの
はなぜか」と追及した
のに対し、向井政彦副
市長が「当時は所有者
の土地のどこを計画地

とするか決まっていな
った。一番若い地番を
書いただけ。すべて買
うなどの約束はない」
と釈明した。

しかし三橋氏は土地
購入時まで、市が覚書
の地番部分を「非開示」
としていたこともあり
「土地購入は場所が大
事。覚書は西側の土地
も買う方針があったと
の疑義が深まる内容
だ」と指摘した。
その西側山林に関し
て、一般質問に立った
松石氏は「西側山林の
買取を提案してきた」
立場で「市民の杜(も

り)」「整備などを盛り
込んだ「防災公園(仮
称)」の私案を提案。
内容は、非常時にへ
リポートとして活用で
きる駐車場や管理施
設、調整池を兼ねた水
辺エリア、また山頂部
分に展望施設を設ける
など。感想を聞かれた
仲川市長は「大変夢の
あるプラン」と応じた
が、対応については
「地域と協議し、事業
実施に向け協定書を締
結した上で、夢あるプ
ランが展開していけた
ら」と述べるにとどめ
た。

松石氏は新斎苑の受
け入れをめぐり、町内
が実質、分裂する事態
となった鹿野園町で、
現自治会とは別に、活
性推進自治会が設置さ
れたことを取り上げ、
今後の対応などを質
問。

仲川市長は「新たに
任意団体が設立された
のは承知している。詳
細な要望等は聞いてい
ない」とした上で、「事
業に関し住民全体の説
明会、また団体ごとの
説明を求められるなら
応じたい」などと述べ
た。